

稲津けんご公式サイト
https://inaken.gr.jp

稲津けんご

府中市議会・市政レポート

いなづ
稲津けんご

2025年 冬号



今号の主な項目

- 1面 【市の動き】子ども議会で中学生が躍動
- 2面 【一般質問】無電柱化で安全を確保しよう
- 3面 【一般質問】精神保健福祉を市と地域で支えよう
- 4面 【議会が謎だから聞いてみた】12. 副議長が議長を代行する時

市の動き

【市政70周年記念事業】未来の議員は誕生するか

子ども議会で中学生が躍動

● 誰だって疑問や問題を感じている

7月29日、府中市にある12の中学校から選ばれた「子ども議員」による子ども議会が開催されました。稲津けんごを始め、市議会議員は行政側にまわり、「答弁担当議員」として、子ども議員の質問に答えていきました。市議会議員にとっては、行政側が普段行っていることを体験する場ともなりました。

子ども議員は市議会議員同様、一般質問を考え、通告文を作りました。テーマは1つに限られましたが、その内容には市議会議員に負けない鋭さを持つものもありました。それを堂々と発表し、丁寧に取り扱う姿は実に頼もしかったです。

子ども議員の皆様には、今後多様な世界で、この経験を活かしてほしいと思いました。



● 1回の答弁で伝わったろうか

子ども議会は、子ども議員1名に対し、答弁担当議員1名が答弁する形で展開されました。稲津は「ごみ問題」について、市で行っている分別リサイクル、リデュース活動などを紹介し、循環型社会を目指す市の姿勢を示しました。子ども議員も真剣な眼差しで答弁を受け止めてくれ、嬉しく感じました。

しかし、通常の議会では、一括質問でも3回の質問が認められることもあり「もっと伝えたいこともあった」「より分かりやすく言えたかも」など、反省することもありました。今回の経験を活かし、丁寧な活動を心がけたいと思いました。また、市議会で答弁する行政の担当者の対応に、感謝の思いが強くなりました。



市民の声

【市政70周年記念事業】アンテナの鋭さを実感

子ども議員は何に注目したのか

● 通告文から知る中学生の視点

今回の子ども議会では、24名の子ども議員が登場しました。通告文の題を見ると、「ちゅうバス」「くらやみ祭り」など、府中市独自のもので、子ども達にとって身近な事柄を取り上げる質問が多くありました。稲津が答弁した「ごみ問題」や「自然環境」に切り込む質問も多く、「これから生きていく世代だからこそ真剣に向き合いたい」という強い意志を感じました。

一方、「国際化」「多様性」「市民参画」など、市議会議員が取り上げることが多い内容を新たな視点で考える質問にも注目が集まりました。



● 他者を思いやる気持ちの強さ

子ども議会の通告文の中には、子ども議員が今現在、その当事者になっていないものの、周囲を見て疑問や意見を伝えたいという内容もありました。それは同時に、他者に対してやさしい世界を望む声でもありました。

重たい話題に対して、漠然とした不安を持ちやすい世代かもしれませんが、だからこそ解決したいことや、前向きに進みたい意志が強く感じられました。決して悲壮感ばかりに飲まれず、柔軟に考える大切さを子ども議員から学びました。



一般質問

【9月議会】都をあげての動きにも注目

無電柱化で安全を確保しよう

● 11月11日は無電柱化の日

景観美化や災害対策などの目的で、電柱を地上から無くす動きが進んでいます。しかし、世界的に見れば日本はまだまだと言ったところで、ここ府中市も進みが鈍く感じられます。そこで稲津は、電柱に対する市民からの相談内容や市内の無電柱化の進捗状況、工法などを尋ねました。

答弁では、電柱や電線が街路樹にかかったり、通行の妨げになったりすることなど、相談は毎年寄せられているとのことでした。市中心部から無電柱化の工事が進み、宅内への引き込み工事も実施されているようです。



● 都で実施されている会議

市長の答弁で、「都・区市町村無電柱化検討会議」が実施されている旨が報告されました。9月と12月の議会で確認したところ、既に2回実施され、各市区町村における無電柱化優先路線を確認し、無電柱化推進に関する決議がなされたとのことでした。

会議の中で、無電柱化の重要性は各自治体で感じているものの、財政支援が必要と考える自治体が多く、どれだけ都が関与していくのかも検討すべきだという意見もあったようです。今後も、これらを踏まえた市の動きにも注目していきます。



一般質問

【12月議会】地中と地上の危険は電柱以外にも

未然に危険を防ぐ施策とは

● 景観よりも命は大事

9月議会後、都内で倒木による痛ましい事故が発生しました。倒木事故は全国でも相次ぎ、景観を守りつつ、いかに危険を減らすかが問われています。

倒木に対する市の対応を尋ねると、危険と判断されたり、バリアフリー化の対象となったりした樹木が、約200本あると答弁がありました。合わせて、植え替える際には、維持管理に適した樹木を選び、地域の特性や環境に配慮するとの回答もありました。

市が樹木を伐採する際には、事前に掲示や周知を進め、なぜそうするに至ったかを丁寧に説明していることも答弁にあり、稲津は「緑豊かな府中市も倒木リスクがあり、被害がないように努めるべきだ」と述べました。



● 安心して歩けるまちに

倒木以外にも、道路のヒビや陥没などによる事故が全国各地で発生しています。市が無電柱化を進めていることもあり、稲津は大事に至らないようにする対策や損傷した道路の復旧工事、最新技術の活用などを問いました。

掘削工事の過去の実績として、水道やガスの管を事前に移設し、電線共同溝を設置したことで、事故なく道路工事を完了したことが紹介されました。損傷した道路の復旧は、大掛かりなもので時間がかかるものの、手早く行っていると答弁がありました。

今後はICTを活用した工事で人材不足に対応しながら、無駄なく工事を進める研究・検討がなされる予定です。



ひといき

自ら学ぶ姿勢が素晴らしい

新人議員が大奮闘 意見書作成に挑戦

● やり遂げることが自信にも

議会では議員が意見書を提出し、全体で審議・採決を行うことがあります。意見書を書くのは経験を積んだ議員というイメージを持たれがちですが、最近は若手議員が提出することも多いです。9月と12月議会では、1期目(2年目)の議員が意見書を作成し、提出者として審議の場に立つという場面がありました。

今回の文章を見ると、しっかりと書いており、提出した議員は審議中も物怖じせず、堂々と対応していました。実は今回、提出に至らなかったものの、別の新人議員も意見書作りに挑戦しており、実に頼もしい姿勢だと感じました。



● 我が身を振り返ってみると

稲津も実は、1期目(しかも2年目)で意見書を作成したことがありました。最初は「自分の力でやってやるぞ」と意気込んでいましたが、先輩議員から指導を受けたり、他会派に所属する議員にも協力を求めたりする中で、独りよがりになってはいけないことを痛感したものです。意見書に賛同する議員を増やすためには、書くことは勿論、交渉や議論も丁寧に行うことが大事であると気づきました。

こうした経験の積み重ねが、議員が持つべき力を養い、自信や成長につながっていくと思います。



一般
質問

【12月議会】民間活力だけでは限度がある

精神保健福祉を市と地域で支えよう

●メンタルヘルスのさらなる充実を

府中市では、令和4年度に自殺者数が過去最高の52名となり、精神障害者保健福祉手帳を持つ方も、過去8年間で1.78倍に増えている状況です。

そこで稲津は、「第7期府中市障害者福祉計画」を基に、市が実施している特徴的な施策や事業を尋ねました。市は、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム連絡会議を行っていると答えましたが、2年間の議論は「住まい」と「地域の助け合い・教育」にとどまっていることが分かりました。稲津は「社会参加」や「医療」などの項目についても、早急かつ深く議論を進めるよう求めました。



●ハードルの高さを乗り越える

精神障がいを持つ方々が地域で安心して暮らせる生活環境を整えるには、一般市民の精神障がいに対する認識を改め、社会的差別をなくすことと同時に、社会資源を活用することが大変重要です。精神障害を持つ市民の住まいを確保するためのグループホームを増やしていくことが、一例としてあげられます。

隣の調布市には、精神保健福祉に特化し、本人に加え家族を支援するプログラムを持つ施設があり、同様の施設や機能を府中市で持つことも大きな支えになると稲津は強調しました。なお、健常者であっても、メンタルヘルスケアは重要です。

委員
会から

【12月議会】困った時はお互いさま

トイレ付き車両で災害時に大きな支えを

●従来型仮設トイレの危険性

日本で発生する大災害を見ると、避難所のトイレ事情の悪さが目につきます。台数が足りない、到着まで時間がかかる、衛生的でない、二次災害で仮設トイレに被害が及ぶなど、安心できない状況も見て取れます。

府中市でも、災害時のトイレの備えを強化しようと、12月議会総務委員会で、トイレ付き車両(モビリティトイレ車両)1台を買い入れる案が審議されました。

今回は、一般社団法人助け合いジャパンから車両を購入し、2025年8月29日の納入を予定しています。トイレ5室(多機能トイレ1室を含む)と清水タンク、汚水タンク、太陽光発電システムを備えた車両で、断水や停電が起きた時でも長期間の利用が可能とされています。



●本市の支えが他の自治体の支えに

今回の購入先では、20以上の自治体で車両が導入されており、本市で災害が起きた時はもちろん、他の自治体で災害が起きた時にも駆けつけて、トイレの支援にあたる仕組みができています。

市には、平時でも活用する計画があり、市内の総合防災訓練や、多摩川で実施される合同水防訓練などで実際に使うことも想定されています。「市にはこのような車両があります」というPRにもなります。

購入費用は2,600万円強となっていますが、命を支えるために重要なものと受け止め、委員会・本会議ともに可決されました。デザインについては、今後市で決めていくことになっています。

本会
議から

【12月議会】8月の大雨が転機に

米軍のPFAS流出、日本で調査せよ

●PFASの危険性、府中市の場合

全国各地で問題となっているPFAS(有機フッ素化合物)ですが、ここ府中市では、近隣の米軍横田基地から流出したものが水道水に影響している疑いがあります。12月議会最終日、米軍が施設外のPFAS流出を認めたことを機に、国による立ち入り調査を求める議員提出議案が審議されました。

議案の賛否は拮抗し、稲津の会派内でも、さまざまな意見が出ました。採決の結果、賛成13、反対14で不採択となりました。稲津は賛成していたので、非常に残念な結果でしたが、その3日後に大きな動きがありました。



●議会で実らずも国は動いた

本会議から3日後となる12月20日に、防衛省、外務省、環境省、東京都、そして周辺6市町からなる調査団が横田基地に入り、米軍からPFAS流出に関する説明を受けました。調査団に府中市は入っていませんが、多くの関係機関が入る大規模な立ち入り調査となり、市も注目せざるを得ない状況となりました。

同日、自民党は日本政府に対し、在日米軍に対してPFAS流出防止の働きかけや、PFAS検査の義務化などを求める提言をまとめました。これらのニュースを見て、議員提出議案に反対した議員は今、何を思うのでしょうか。



市民の声 2024 年は「ふちゅチケ」発売なし

【あの後どうなった?】待ちわびた方も多かったはず

● 物価高だが疑問の声もあった

府中市内で 4 回実施された消費喚起策「ふちゅチケ」ですが、2024 年はその販売がありませんでした。これまでも、ふちゅチケの販売方法に苦情や改善要望が強く、実際に購入した方から「かえって無駄遣いをしてしまいそうだ」という声も上がっていました。店舗側からも「利用のハードルが高かった」という意見があり、今回の対応は致し方なかったと感じます。

「ものを持たない生活」を実践される方もいらっしゃいますが、本当は必要なものがあるのに買えない状況や、買いたい思いを我慢しすぎることは、良いと言い難いです。



● 既存システムを使うようだが

ふちゅチケと同時期に実施されることが多かった「フーちゃんお買い物券」(むさし府中商工会議所が主導)は、2024 年も実施されました。今回は、ふちゅチケのアプリ版を利用する形で実施され、紙による券はありませんでした。

ふちゅチケのシステムを使うとあって、ふちゅチケを再開する可能性は否定できないでしょう。しかし、議会で再開の議論は起きていません。再開を検討するのであれば、フーちゃんお買い物券も含めた検証を行うことからとなるでしょう。



教えて!
稲津さん

議会が謎だから聞いてみた



【質問 12】



長丁場の会議で議長が副議長に代わるけどその間、議長は何をしているの?

【稲津けんごが答えます】

● 副議長が進行中、議長はどこに?

主に、一般質問を行っている際、昼休憩後に議長席に副議長が座っていることが多いと思いませんか。実はこの時、議長は議長室や議員控室などに入り、議員としての自席には座っていません。

しかし、議長は議会のことを気にせず休憩している訳ではなく、議場の様子が映し出されたモニターを通じて、議事を確認しています。副議長との交代後の進行を整えたり、万が一にも副議長の身に不測の事態が起きた場合に備えたりなど、しっかりと準備をする時間にも充てています。

● 委員長でも同じことがあるの?

現在、私は総務委員会の委員長を務めていますが、この委員会が長丁場にならないため、副委員長と交代したことはありません。しかし、予算特別委員会で委員長を務める際は、終日かつ連日の進行となるため、副委員長と交代することがあります。

この場合、私は議員控室に入り、モニターや音声を通じて委員会の様子や議事を確認しています。引き継ぎ後にスムーズに議事を進めるため、準備も念入りに行っています。議長でも委員長でも時間の使い方は同様ではないでしょうか。

一旦、議場や委員会室を離れることで、頭の中を整理しやすくなるというメリットもあります。



お知らせ 2024 年は選挙イヤーだったが

2025 年も選挙が続きます

● 2024 年の選挙を振り返る

2024 年は、1 月に府中市長選挙が、7 月には東京都知事選挙と東京都議会議員補欠選挙も実施されました。また、10 月には衆議院の解散総選挙も実施されました。「選挙が多い」と思われた方も多いでしょうが、それぞれの投票率を見ると、上昇傾向があると感じました。政治への関心(時に怒り)が票に込められていると実感しました。

ポスターや SNS の活用法に多くの問題が出た年でもありましたが、必要かつ正しい情報を多くの方に届けるために、これらは積極的に活用されていくことでしょう。



● 2025 年は都議選と参院選実施

2025 年 7 月には、東京都議会議員選挙と参議院議員選挙が予定されています。一部では都議選の後、7 月の 3 連休中日に参院選が実施される可能性が高いと報じられています。府中市議会 6 月議会は、通常よりも開始時期が早まることが予想されます。

府中市議会は 3 月議会で任期の折り返しとなり、5 月開催の臨時会では、新議長の選任や、所属委員会決めなどが行われます。結果次第では、今後の市政運営にも影響が出ることも予想されます。



←府中市議会を知る
日程や議案など、議会情報は
こちらから

府中市議会を見る→
本会議インターネット中継は
こちらから

